



発行元：NPO 法人 東アジア政経アカデミー

発行元連絡先：〒168-0082 東京都杉並区久我山 4-38-14 電話：03-3332-8481 FAX：03-3332-8433

URL：http://www.eapea.sakura.ne.jp/ e-mail：shnagano@d8.dion.ne.jp

この号の内容

1 はじめに

- 危機こそチャンス！
(永野慎一郎)

2 活動報告

- 講演会及びセミナー等参加
- 在韩国日本大使館訪問
- 大韓民国憲政会訪問

3 会員からの便り①

- 技術の発達と戦争リスク
(貫隆夫)
- 参議院協会訪韓団に参加
(永野慎一郎)

4 会員からの便り②

- 日本と韓国のテレビ放送字幕
(薄葉威士)

編集後記

危機こそチャンス！

東アジア政経アカデミー代表 永野慎一郎

2018年4月27日、南北分断の象徴である板門店で文在寅韓国大統領と金正恩朝鮮労働党委員長による南北首脳会談が開催された。板門店は朝鮮戦争休戦協定を締結した歴史的な場所である。南北首脳会談は、2000年の金大中大統領と金正日総書記、2007年の盧武鉉大統領と金正日総書記による会談がそれぞれ平壤で開催された。軍事境界線の非武装地帯とはいえ、韓国側の施設での開催は初めて。しかも金正恩委員長の希望によるものだけに驚きを禁じ得ない。世界が注目する歴史的な場所を選んだ金委員長の判断に改めて感嘆する。北朝鮮の最高指導者が軍事境界線を越え、南側に足を踏み入れたのは初めてだ。サプライズもあった。韓国側に渡った金委員長は文大統領に北側に入るように要請し、二人は手をつないで軍事境界線の北側に入った。二人そろっての南北往来に世界の人々が賛辞を送ったに違いない。分断の象徴である軍事境界線を平和の象徴にしたいという思いがあったとすれば素晴らしいことである。それを素直に受け止めたい。

金正恩委員長は会談場所の「平和の家」の芳名録に「新しい歴史はこれから、平和の時代、歴史の出発点にて」と記帳した。この言葉が本心であり、その約束を誠実に遵守して欲しい。南北首脳会談に至るまでの北朝鮮をめぐる国際情勢を考えると、一触即発の危機に直面していた金正恩政権が最後のカードとして朝米首脳会談を想定し、南北首脳会談を提案したものと考える。祖父・金日成と父・金正日を越える勇氣ある判断である。北朝鮮にとって最後のチャンスである。四面楚歌の危機を脱するには対話による方法しかないことに気づいたからだろう。しかし、国際社会は金委員長の行動に半信半疑であることも事実である。彼の過去の行動がそれを裏つけている。政治は結果である。これから誠実に国際社会が納得できる答えを出し、確実に実行してもらいたい。ごまかしは効かず、時間稼ぎとして利用することは許されないことは言うまでもない。信頼を取り戻すまでは時間が必要である。忍耐強く態度で示すしかない。

危機こそチャンスである。関係諸国においても圧力だけでなく、圧力と対話を適切に行いながら、問題解決に努めることも重要である。感情に流された強硬手段だけでは解決の道が開かれない。平和的な方法での解決が一番望ましい。今回の一連の動きが上手くいかず、失敗に終わったら、大惨事が起る可能性が極めて高い。対話による非核化が実現されなければ、日本をはじめ、韓国、台湾の世論は核武装へと動き、北東アジアに核拡散が現実となり、核地帯となる可能性すらある。関係諸国の指導者たちはこの点に留意し、共に非核化に向けて知恵を絞るべきであると思う。



2018年4月27日 南北首脳会談（板門店・平和の家）

活動報告

◇北朝鮮派遣労働者に関する国際セミナー

永野慎一郎代表は、2017年4月1日、早稲田大学で開催された韓国統一研究院、早稲田大学地域・地域間研究機構等共催の「北東アジアにおける労働力移動：海外派遣北朝鮮労働者の事例」国際セミナーにおいて司会を務めた。

◇北朝鮮派遣労働者に関する国際セミナー

永野慎一郎代表は、2017年9月26日、早稲田大学で開催された早稲田大学地域・地域間研究機構主催「北朝鮮海外派遣労働者の現状と人権実態及び改善策」の国際セミナーにおいて総合討論の司会を務めた。

◇東アジア国際フォーラム上海会議

永野慎一郎代表は、2017年11月3日、上海国際問題研究院で開催された東アジア国際フォーラム上海会議において「東アジア時代と日中韓3国の役割」について報告した。

◇日韓トンネル推進静岡県民会議結成3周年記念大会講演

永野慎一郎代表は、2017年11月26日、静岡県コンベンションアーツセンターで開催された日韓トンネル推進静岡県民会議結成3周年記念大会において「これからのアジアと日韓トンネルの役割」と題して講演した。

◇韓半島統一と東北アジア平和実現国際シンポジウム

永野慎一郎代表は、2017年12月11日、韓国国会議員会館小会議室において開催された「韓半島統一と東北アジア平和実現国際シンポジウム」に招待され『日韓トンネルが東北アジアの平和と韓半島統一に及ぼす影響』と題して講演した。



東アジア国際フォーラム上海会議参加者一同

◇在韓国日本国大使館訪問

永野慎一郎代表は、2017年12月12日、在韩国日本大使館を訪問し、長嶺安政大使と面会した。長嶺大使に新著「日韓をつなぐ「白い華」綿と塩 明治期外交官・若松兎三郎の生涯」を贈呈し、明治期に韓国で外交官として活躍した若松兎三郎の業績について紹介し、日本と韓国の文化交流について意見交換した。



参議院協会訪韓団 大韓民国憲政会訪問

◇大韓民国憲政会訪問

永野慎一郎代表は、2017年12月13日、韓国の前職・元職国会議員で構成されている大韓民国憲政会（会員約1,200名）を訪問し、劉容泰会長始め役員たちと日本参議院協会（参議院議員退職者たちの組織）との交流について協議した。平昌オリンピック期間中に参議院協会有志が訪韓して交流を始めたいという意向を伝えた。憲政会側から歓迎しますというメッセージを参議院協会に伝えるように依頼された。

◇アジア・ローカリゼーション国際フォーラム台中会議

永野慎一郎代表は、2018年3月30日、台湾・台中の逢甲大学で開催されたアジア・ローカリゼーション国際フォーラム台中会議で「アジアの経済発展とビジョン」と題して報告した。



アジア・ローカリゼーション国際フォーラム台中会議参加者一同

会員からの便り①

技術の発達と戦争リスク

武蔵大学名誉教授 貫 隆夫

軍事予算と環境予算 昨今のアジアにおける最大のリスクは北朝鮮をめぐる戦争リスクである。平昌冬季五輪を機に融和ムードが高まっているとはいえ、楽観は許されない。「21世紀はアジアの時代」と言われ、アジアの経済的発展に対する期待があり、事実、今世紀に入ってから中国や東南アジア諸国の経済成長には目覚ましいものがある。しかし、経済の建設には長期にわたる投資と労働が必要であるのに対し、戦争による破壊は一瞬である。防災による安全安心が強調されるが、戦争回避、戦争根絶こそ安全安心の根本であり、政策的な優先順位が何よりも上位に来るべきはずであるが、各国とも仮想敵国に攻撃されてもそれに対抗できる防衛力（飛来するミサイルの破壊など）、さらには防衛力の一環として敵の攻撃拠点を壊滅できる攻撃力、報復力を高めて相手国の攻撃意欲を喪失させるための原潜や長距離核ミサイル保有等々、軍事力強化政策を推進する結果となっている。安心のために攻撃力を高め、相手国もそれを上回る攻撃力を構築する軍備強化の悪循環から人類は脱することができていない。過日亡くなった英国のホールデン博士は人類の滅亡原因となるリスクの一つに地球温暖化を挙げているが、人類共通の課題としての環境問題が深刻化する中でも、各国政府の予算配分は軍事予算の方が環境予算に比べて圧倒的に大きく、例えば米国国防省の予算は5850億ドル（2016年）、これに対し環境担当部署は省ではなく庁 Agency であり（環境保護庁）、最新の予算規模は56.5億ドルと軍事予算の100分の1を下回っている。中国の軍事費の伸び方は近隣諸国の大きな懸念を引き起こしており、北朝鮮については国民の生活窮乏化の中での軍事大国化が推進されている。

技術水準と道徳水準 技術は知識の利用であり、前時代の知識は次の時代の出発点となるから、時間の経過とともに人類の知識水準（したがって技術水準）は累積的に上昇する。当然、技術の一領域としての軍事技術も累積的に発達する。これに対して技術の利用を制御する倫理や道徳は累積的な発達を遂げることができない。科学は後代の科学者ほど知識水準が高いのに対し、宗教は教祖が最高水準であって、後代に生きる我々は修行を積んで教祖の道徳的水準に近づこうと努力するに過ぎない。攻撃力をアクセル、攻撃力の制御をブレーキとすれば、歴史時間の経過とともに人類はアクセルとブレーキの発達水準の差が大きくなる宿命を負わされている。敵対意識や攻撃意欲は感情の領域であり、戦略や戦術に理性は働いても暴力的衝突を回避する絶対的な切り札とはならない。太平洋戦争は衝動的に始まったものではなく、政府の高学歴エリートが何度も御前会議を開き、理性的な議論をして開戦に踏み切っている。領土紛争は国家の縄張り争いであるが、動物の縄張り争いと違って軍事力を動員して行われる国家の争いは核戦争の危機を孕むものとなっており、比喩的に言えば「気遣いに刃物」ではなく「気遣いに核ミサイル」の段階に到達している。

もちろん、軍事力の抑制・制御のための努力は、核拡散防止条約や昨年7月に国連で採択された核兵器禁止条約（日本は不参加）など様々な形で行われている。AIの軍事利用に関しても、今年4月5日付の共同通信には次のような記事がある。

「世界30の国・地域の人工知能（AI）やロボット工学の研究者らは4日、AIを用いた軍事技術の研究センターを設置した大学、韓国科学技術院について「ロボット兵器の開発競争を加速させる動きで遺憾だ」と批判、開発をしないと確約するまで絶交すると宣言した。」

KAISTは私が訪問研究員として1年間お世話になった研究機関であり（KAIST 技術経営大学院）、世界の研究者たちからの絶交宣言に心が痛むが、AIの軍事利用の研究を進めるKAISTの研究者たちにはその研究が韓国の国益に資するという大義名分があるはずであり、AIの軍事利用は世界的レベルで今後進むことが予想される。

相互理解と不満増大 スマホや人工知能が象徴する技術の発達は情報の取得・通信・処理の能力を高めることで相互理解のためのコミュニケーションを強化し、戦争リスクを低める効果が期待される一方で、国内外の格差の現実を広く知らしめ、現実への不満を増大させ、国内および国際間の緊張を高める効果も予想される。核強化を推進する北朝鮮の強硬姿勢の背景には、情報統制を強化しても防ぐことができない周辺国の生活への羨望、自国の生活水準への不満を軍事的緊張によって抑え込もうとする権力側の意図があり、トランプ大統領も国内格差への不満を北朝鮮との緊張を利用して封じ込めようとする構図となっている。反対方向から同時に2台の車を発達させ、先に衝突回避のハンドルを切った方を負けとするチキンレースは冷静なハンドル操作よりも「あいつは正気でない」と相手に思わせることが勝利のカギとなる。トランプ大統領によって北朝鮮の核放棄が実現するとすれば、戦争を辞さないトランプ氏の狂気が金正恩氏の狂気を上回ることによって戦争が回避されるという意味で、戦争放棄による世界平和の実現を願う日本国憲法は厳しいジレンマに立たされることになる。（2018年4月16日）

（当アカデミー理事）

参議院協会訪韓団に参加

永野慎一郎代表は、2018年2月21-23日、参議院協会訪韓団に同行した。2月21日、金浦空港到着後、在韓日本大使館表敬訪問し、長嶺安政大使と懇談した後、午後3時国会議事堂敷地内にある大韓民国憲政会を訪問した。野沢太三参議院協会理事長を団長とする訪韓団と憲政会役員たちが両機関の交流について協議した。国会議員OBたちの自由な立場で交流を進め、両国の懸案問題解決に努めることに一致した。終了後、江南地域にある韓定食店に招待され、韓国料理と韓国伝統酒「覆盆子」（ぼくぶんじゃ）で盃を交わした。交流の話はさらに盛り上がった。22日早朝ソウルを出発して平昌（ピョンチャン）冬季オリンピック競技場に向かった。普光（ボガン）フェニックス・スノーパークで行われたフリースタイルスキー男子ハーフパイプ決勝戦を観戦した。

会員からの便り②

日本と韓国のテレビ放送字幕

公益社団法人中央日韓協会理事 薄葉 威士

初めての富平市 4月に野暮用で韓国に行ったが、宿泊地は富平市。ソウルの近郊でも私には初めての町。いつもはソウル市内の東大門にある「東横イン・ソウル東大門ホテル」が定宿だが、今回は満室で予約できなかった。かといって、なじみのないホテルはイマイチなので、最近富平市に新たに開業した「東横イン仁川富平ホテル」に泊ることになった。ソウル市内からは少々離れているので、金浦空港のインフォメーションで富平行きのリムジンバスの乗り場を聞いたつもりだったが、指示されたところに行ってみたら路線バスの乗り場だった。そこに運よくというか生憎というか富平経由仁川行きの路線バスが来たので、「まあいいか」ということで乗ってしまった。1700ウォン(約200円)という安い運賃はありがたいが、そこは路線バス。引きずっていた大きなキャリーバッグの置き場もなく、場所をとるので通路にも置けず、「じゃまだな!」という周りの乗客の視線に耐えながらの40分の乗車で何とか富平駅前前で下車。東横インホテルチェーンは韓国には8ヶ所ある。この富平、ソウル東大門、太田市、釜山市内に3カ所、釜山海雲台に2ヶ所。どれも適当な宿泊料金なので、お金のない私には利用しやすいホテルチェーンだ。

スマート速記学科 この富平市の近くに富川市があり、そこにちょっと変わった学科を持つ大学がある。昨年3月に「スマート速記学科」というのを開設した富川大学だ。この「スマート速記学科」という名称は、日本ではほとんどの人にはなじみがないと思うが、特殊なキーボードを使って入力し、パソコンを通して日本語(韓国語)文字列に変換するという、日本の裁判所で採用されている方式の韓国版だ。この方式は韓国では国会、地方自治体議会等での議事録づくり、それにテレビ放送の字幕づけに活用されている。もちろん日本でも同様の技術は各分野で活用されているが、「スマート速記」という言い方はしていない。昨年暮れにこの大学を訪問し、学科長から話を聞く機会があった。授業内容としては、字幕付与についての技術的なものと一般教養、それに政治、経済、社会関係の専門知識だ。教科書等も見せてもらったが、スマート速記の実務に関するもの、議会に関するもの、政治経済の仕組みに関するもの等、広範囲にわたっていた。この学科は現在は2年制の学科だが、いまの2年生の教育が修了する来年3月からは4年制にする予定だとのことであった。就職先は、国会、地方自治体の議会関係、テレビ放送関係が予定されているとのことである。また、実務教育に重点を置いているということで、民間会社から派遣されている学生も多く見受けられた。このような大学(学科)は日本には見当たらないが、諸外国ではベルギー、ドイツ、ハンガリー、チェコ、中国等にあると聞いている。

テレビ放送字幕 テレビ放送字幕について見ると、日本では普通にテレビを見ているときは字幕は見えないが、リモコンで「字幕」というボタンを押すと、画面の下に2行、人が話したことをほぼ全て表示するクローズド・キャプションという方式でやっている。韓国ではリアルタイムで地上波は24時間、100%字幕が付与されている。放送字幕では、一旦録画したものに字幕をつけて放送するとか、ニュース等ではリアルタイムで字幕をつけるということで、以下のような方式に分けられている。①配信動画等への字幕(ネット)、②完プロ(完パケ)での字幕(テレビ放送)、③リアルタイム(生)字幕(テレビ放送)と概ね3つに分けられるが、①については急速に進んできている。総務省の指導もあり、聴覚障害者向けに配信業者がその必要性を大いに認識してきたようだ。②については、NHK、民放各社が各々独自に行っているが、規格、品質がそれぞれ異なり統一が望まれている。しかし、放送各社の持つ特性、利害等も絡まるせいか統一実現の道は見えていない。③は、テレビ業界は本腰を入れて取り組んでいるが、既に終了した韓国の平昌(ピョンチャン)オリンピック・パラリンピック、少し先では東京オリンピック・パラリンピック等を見据え、対応番組はますます拡大していきそうだ。

このテレビ放送字幕というのは、本来は聴覚障害者、あるいは難聴者のために始まったものだが、現在では例えば空港ロビーのような音声を出せない施設内でのニュースや広報、娯楽情報などに活用されるようになってきている。また最近では、落語とか歌舞伎等の興行でも字幕をつけることが多くなってきて、国際会議とかシンポジウム等では字幕をつけるのが常識になっている。

(当アカデミー理事)



■編集後記

昨年8月から9月にかけて、私たちは北朝鮮のミサイル発射によるJアラートに驚き、いよいよ核による首都圏攻撃が近いのではないかと噂も出ていました。ところが平昌オリンピック以降は、朝鮮半島に急激な雪解けモードが起こり、遂には4月27日の歴史的な南北首脳会談の実現となりました。さらにはこの件では、好戦的なトランプ大統領が2019年のノーベル平和賞候補に推薦されるという、何とも奇妙なニュースも聞こえてきています。今回の会談が朝鮮半島情勢の安定化につながることを願うのみですが、他方で私は80年前のミュンヘン会談におけるチェンバレンとヒトラーを想起せずにはいられません。その意味で、「道徳水準」問題を取り上げた貫先生の御玉稿は社会的意義のあるものだと思います。また薄葉先生の御玉稿も、情報操作という視点から興味深いものでした。いずれにせよ、ご多用中にもかかわらず、御玉稿をお寄せ頂いたお二人の先生方には厚くお礼申し上げます。(大杉由香)